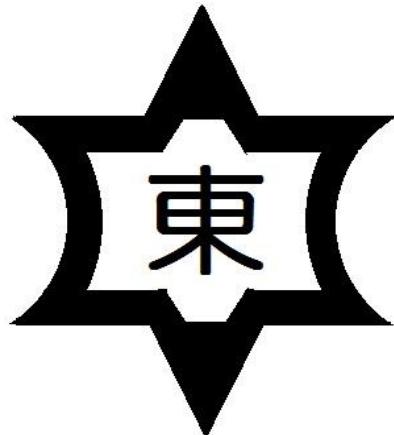


令和 4 年度

「運営に関する計画・自己評価」

最終評価



大阪市立東中学校

令和 5 年 2 月

大阪市立東中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

校区は、旧東区全域と広く、4 小学校があり、住居は主に校区東側に多い。また、校区には、タワーマンション等が建設され、校区小学校はいずれも児童数増のため校舎を増築したところであります、本校も生徒数急増の時期を迎える、校舎増築工事の真っただ中である。生徒は全体的に落ち着いた状況の中で学校生活を送り、コロナ禍で制限はあるものの、創意工夫して教育活動に取り組み、学力・体力の面では各種調査でしっかりと結果を記録している。

しかし、近年、保護者の価値観が多様化するとともに、生活指導面では、より一層きめ細かな対応及び関係諸機関との連携が求められている。たとえば、本校に通学する生徒の家庭環境をみると、比較的裕福な家庭が多いが、中には基本的な生活習慣を身につけることができず、遅刻・欠席を繰り返すケースや宿題など課題の提出日を守れない生徒も見受けられる。また、ヤングケアラーと自認する生徒も在籍する。一方で、コロナ禍の影響もあり、休みがちになる生徒の増加が危惧されるところである。

いずれにしても、一人ひとりの生徒が自尊感情を高め、豊かな心の育成を通して、自分に自信と誇りをもち、進路決定に導くことが求められる。また、昨年度、校内に開設した「HER (東エンパワメントルーム)」、今年度設置された「通級指導教室」などの運用を軌道に乗せることが求められる。そのためにも、スクールカウンセラー、こども相談センター、区役所子育て支援室などの関係諸機関とも連携を密にし、個に応じた指導に努めていく必要がある。

しかしながら、生徒指導主事を始め学級担任においては、日々の教育活動に忙殺され、時間的な余裕がなく根本的な解決には至っていないケースもあり、働き方改革と並行して課題解決に向けて進めなければならない。

【安全・安心な教育の推進】

全市共通中期目標

- 1 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 90 % 以上にする。
- 2 令和 7 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和 3 年度より減少させる。
- 3 令和 7 年度末の校内調査において、令和 3 年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1 ~ 3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)

- 1 出席日数の増 (学校内外で ICT 等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む)
- 2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の中期目標

- 1 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 75 % 以上にする。
- 2 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 70 % 以上にする。

3. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を45%以上にする。
4. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を50%以上にする。
5. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を75%以上にする。
6. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。
7. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を50%以上にする。
8. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を35%以上にする。また、令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を60%以上にする。
9. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでもよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を70%以上にする。
10. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を30%以上にする。
11. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を80%にする。
12. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を60%以上にする。
13. 令和7年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。
14. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通中期目標

1. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を55%以上にする。
2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる。

3. 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を65%以上にする。
4. 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を77%以上にする。

学校園の中期目標

1. 令和7年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。
2. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を75%以上にする。
3. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を30%以上にする。
4. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を55%以上にする。
5. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を75%以上にする。
6. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を60%以上にする。
7. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。
8. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。
9. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を80%以上にする。
10. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を45%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通中期目標

1. ICTの活用に関する目標を設定する。
 - ・令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を75%以上にする。

- ・令和7年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を75%以上にする。
 - ・令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を75%以上にする。
 - ・令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を70%以上にする。
2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
- ・4~11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準2）を満たす教員の割合を35%以上にする。
 - ・教員の時間外勤務時間について、45h未満…Lv0、45h~60h…Lv1、60h~80h…Lv2、80h~100h…Lv3、100h以上…Lv4と設定し、令和7年度の4月~11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4を0回にするとともにLv3とLv4の合計の割合を18%以下にする

【その他】

学校園の中期目標

1. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を55%にする。
2. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を45%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

1. 令和4年度に学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を86%以上にする。
2. 令和4年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
3. 令和4年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1~3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）

1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む）

2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。

3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の年度目標

1. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。
2. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。
3. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。
4. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を46%以上にする。
5. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。
6. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。
7. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を46%以上にする。
8. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を31%以上にする。また、令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を56%以上にする。
9. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする。
10. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を26%以上にする。
11. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を76%にする。
12. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さ感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする。
13. 令和4年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。
14. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

1. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を51%以上にする。
2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
3. 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を61%以上にする。
4. 令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を54%以上にする。

学校園の年度目標

1. 令和4年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。
2. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。
3. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を26%以上にする。
4. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。
5. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。
6. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする。
7. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を66%以上にする。
8. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。
9. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を76%以上にする。
10. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

1. ICT の活用に関する目標を設定する。
 - ・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71% 以上にする。
 - ・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「インターネットや SNS を正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 70% 以上にする。
 - ・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策として ICT を活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 70% 以上にする。
 - ・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 66% 以上にする。
2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
 - ・ゆとりの日を月 1 回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。
 - ・4~11 月の 8 か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準 2）を満たす教員の割合を 30% 以上にする。
 - ・令和 7 年度の 4 月~11 月までの 8 か月間の時間外勤務時間において、教員全体で Lv4 の割合を前年度より半減させるとともに Lv2 以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 51% 以上にする。
2. 令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 41% 以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 令和4年度のに学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を86%以上にする。

1については、「思う」と答えた生徒は84%であった。肯定的な回答全体では、97%となっており、ほぼすべての生徒がいけないこととの認識は持っている。実際、いじめられている本人の訴えよりも、周りの生徒たちから教員の耳に入ることも多い。こうしたいじめを許さない土壤が、一人でも多くの生徒を救うことにつながるため、「いじめ（命）について考える日」の取り組みは続けていかなければならない。

- 令和4年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

2については、前年度が8.06%だったのに対し、7.82%という結果になった。一つには、HERやSARといった教室に入りづらい生徒たちの居場所づくりを組織的に展開できたことが要因と考えられるほか、積極的にスクールカウンセラーにつなぎながら、生徒たちが安心できる環境を整えることに注力してきたことが結果につながったと考えられる。

- 令和4年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）

- 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む）
- ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

3については、前年度が47.4%であったのに対し、今年度は45.5%となり、増加させることはできなかったが、同水準に近い結果となった。改善が見られた生徒については、進路を意識して取り組み始めた三年生が多く見られた。将来の希望を意識させることで、残り少なくなっていく学校生活に対し、何とか食らいつこうという姿勢を生徒たちが見せようとしていることが見て取れる。こうしたことからも、進路指導について、次年度も丁寧に行っていくことが求められよう。

学校園の年度目標

- 令和4年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。

1については、64%と下回ったが、肯定的な回答を見ると95%で、昨年度の94%を上回った。

2. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。

2については、64%と下回ったが、肯定的な回答を見ると97%で、昨年度と同等であった。

3. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。

3については、31%と下回ったが、肯定的な回答を見ると74%で昨年度の78%と同等であった。

4. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を46%以上にする。

4については、45%とほぼ目標を達成できた。

5. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。

5については、64%と下回ったが、肯定的な回答を見ると98%で、昨年度の95%を上回った。

6. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。

6については、59%と下回ったが、肯定的な回答を見ると87%で昨年度の90%と同等であった。

7. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を46%以上にする。

7については、37%と下回り、肯定的な回答を見ても65%で、昨年度の74%を下回った。
この項目については、次年度、特に改善に努めるよう取り組みたい。

8. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を31%以上にする。また、令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を56%以上にする。

8については、「参観等」の質問では、22%と下回ったが、肯定的な回答を見ると82%で、昨年度と同等であった。「学校行事」の質問では、51%と下回ったが、肯定的な回答は、昨年同様に100%であった。

9. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする。

9については、55%と下回ったが、肯定的な回答を見ると97%で、昨年度の96%を上回った。

10. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を26%以上にする。

10については、11%と下回り、肯定的な回答を見ても26%で、昨年度の32%を下回った。この項目については、次年度、特に改善に努めるよう取り組みたい。

11. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を76%にする。

11については、83%と目標を達成できた。

12. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さ感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする。

12については、50%と下回ったが、肯定的な回答を見ると91%で、昨年度の89%を上回った。

13. 令和4度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。

13については、52%と下回ったが、肯定的な回答を見ると昨年度と同等の93%であった

14. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。

14については、59%と下回ったが、肯定的な回答を見ると95%で、昨年度の94%を上回った。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を51%以上にする。

1については、49%と下回ったが、肯定的な回答を見ると昨年度と同等の92%であった。

- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

2については、対府比は、3年生は国語1.14（昨年比+0.03）数学1.19（+0.04）

2年生は国語1.11（昨年比+±0）数学1.24（+0.09）となり、目標を達成した。

- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を61%以上にする。

3については、76%となり、目標を達成した。

- 令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を54%以上にする。

4については、男子68%、女子45%、男女を平均すると57%となり億票を達成した。

学校園の年度目標

- 令和4年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。

1については、

国語は、43%で目標を下回った。また、肯定的な回答も81%と昨年度の89%を下回った。

数学は、42%で目標を下回った。また、肯定的な回答も85%と昨年度の88%を下回った。

英語は、43%で目標を下回った。また、肯定的な回答も81%と昨年度の89%を下回った。

この項目については、次年度、特に改善に努めるよう取り組みたい。

- 令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。

2については、74%で目標を達成できた。

3. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を26%以上にする。

3については、29%で目標を達成できた。

4. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。

4については、45%と下回ったが、肯定的な回答を見ると昨年度と同等の88%であった。

5. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。

5については、76%で目標を達成できた。

6. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする。

6については、55%と目標をほぼ達成できた。

7. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を66%以上にする。

7については、69%で目標を達成できた。

8. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。

8については、60%と下回ったが、肯定的な回答を見ると昨年度と同等の91%であった。

9. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりと、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を76%以上にする。

9については、73%と下回ったが、肯定的な回答を見ると昨年度と同等の97%であった。

10. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。

10については、39%と下回ったが、肯定的な回答を見ると昨年度と同等の82%であった。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

1. ICTの活用に関する目標を設定する。

(1) 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。

(1)については、76%で目標を達成できた。

(2) 令和4年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。

(2)については、69%と目標をほぼ達成できた。

(3) 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。

(3)については、69%と目標をほぼ達成できた。

(4) 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする。

(4)については、55%と下回ったが、肯定的な回答を見ると昨年度と同等の97%であった。

2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

(1) ゆとりの日を月1回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。

(1)については、次年度に「ゆとりの日」を設定し、取り組む。

(2) 4~11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間について（基準2）を満たす教員の割合を30%以上にする。

(2)については、40%で目標を達成できた。

(3)令和7年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4の割合を前年度より半減させるとともにLv2以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。

(3)については、教職員全体の時間外勤務時間を見ると、55.4時間であり、昨年度の61.4時間を下回った。つまり、改善できた。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を51%以上にする。

1については、54%で目標を達成できた。

2. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を41%以上にする。

2については、51%で目標を達成できた。

大阪市立東中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>1. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を86%以上にする。</p> <p>2. 令和4年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>3. 令和4年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）</p> <p>1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む）</p> <p>2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。</p>	
<p>学校園の年度目標</p> <p>1. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。</p> <p>2. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。</p> <p>3. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。</p> <p>4. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を46%以上にする。</p> <p>5. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。</p> <p>6. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。</p> <p>7. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を46%以上にする。</p>	B

8. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を31%以上にする。また、令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を56%以上にする。
9. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする。
10. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を26%以上にする。
11. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を76%にする。
12. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さ感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする。
13. 令和4年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。
14. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (教務部)	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-7)</p> <p>教科授業だけでなく様々な活動の中で、コミュニケーション活動を取り入れた内容を実施する。また、読書活動を充実させるため、朝読書の習慣化、図書室を利用した授業を実施する。言語力の育成に向け、表現活動や「学び合い」の機会を増やす。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣がつき、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を全体の46%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表する機会がよくある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を昨年度と同等以上にする。 	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣がつき、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は37%で、目標値を9ポイント下回った。 		
【取組内容】について		
<ul style="list-style-type: none"> 本年度も引き続き全学年で朝読書を実施し、図書室を利用した授業も進めている。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表する機会がよくある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は28%で昨年度を少し下回った。 		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
<ul style="list-style-type: none"> 図書室や学級文庫については、昨年度に引き続き感染症対策を行ったうえで実施している。引き続き取り組みを進めていく。また、多くの場面で言語活動を取り入れた授業や特別活動を積極的に行い、思考力・判断力・表現力を高める取り組みを展開していく。 		
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-12)		
<p>体験的な学習や表現・発表する取り組みを設定し、また、実験・実習を積極的に取り入れるなど生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を実施する。</p>		
指標		
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を全体の55%以上にする。 		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は50%で、目標値を6ポイント下回った。 		
【取組内容】について		
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は49%で、目標値を6ポイント下回った。 		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
<ul style="list-style-type: none"> 今後も、体験的で生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な活動を、授業や校外学習、泊行事などに取り入れていく。 		
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】(学-10)		
<p>地域の施設及び人材活用を積極的に行い、それらを取り入れた学習活動を充実する。</p>		
指標		
<ul style="list-style-type: none"> 学校元気アップ地域本部事業において、令和4年度はPTAや地域・学生等のボランティアの数を20名以上集める。 		C

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を26%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は11%で、目標を15ポイント下回った。

【取組内容】について

- ・昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を施しながら、図書館開館・学習会の実施を進めている。12月末現在の図書室利用者の延べ人数は2491名となっている。しかし、図書館の利用や学習会を通して、学校元気アップ事業に参加しているという生徒の意識はまだ低く、アンケート結果は11%と目標を大きく下回った。
- ・本年度は、学校元気アップ地域本部事業において、9月末までにPTAや地域等のボランティアの数を18名集めることができた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・元気アップ事業と図書館開館とが結びついていない生徒が多いため、生徒たちへの周知ができるようになる。また、今後も、図書室や学習会の利用や、参加者ボランティアがさらに増えるよう、学校元気アップの活動を積極的に発信していく。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (生活指導部)

進捗
状況

取組内容①【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】(市-2・3)

- ・主任会、生活指導部会で不登校生については、その対応策について常に議論し具体的な対応策のもとに学年、生活指導部の連携を軸とした組織的対応を心がける。また「不登校対策委員会」をさらに充実させる。
- ・学年ごとに迅速かつ正確に実態把握を行うとともに、情報交換を充実させる。生徒指導主事、学年主任、担任など、常に複数の教職員で実態に沿った課題の解決に向け協議し、決定した内容を確実に遂行する。
- ・課題の解決に向けて、関係諸機関とも積極的に連携をする。
- ・諸会議における不登校生の報告を行う際に、現状のみではなく、現状と対応状況をあわせて報告するよう意識をする。

指標

B

- ・日々の学年打ち合わせ、または主任会、生活指導部会において、不登校生徒の状況について報告し具体的な支援、対応策を明確に示し対応にあたる。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を55%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して、組織的に指導に当たれるよう、体制の充実に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を49%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を62%以上にする。

- ・令和4年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合が前年度より減少した。また、SCによる家庭訪問の実施や職員会議での情報交換の充実、サポートネットなどの関係諸機関との連携は深まっており、各学年、各学級において不登校生徒に対する支援、および家庭との連携も向上している

【取組内容】について

- ・令和4年度後期の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が76%（目標55%以上）だった。
- ・令和4年度あと期の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して、組織的に指導に当たれるよう、体制の充実に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が51%（目標49%以上）だった。
- ・令和4年度あと期の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が61%（目標62%以上）だった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・3つ目の項目のみ目標を達成できなかったが、前期のアンケートよりも1%高くなっている。改善がみられる。今後も組織的な対応の充実に努めたい。

取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（学-2）

- ・学校生活を通じて、日常的に全教職員で集団規律の確立を心がけ、あいさつ・適切な言葉遣い・服装・頭髪等の生徒の規範意識を育む指導を継続的に取り組む。

指標

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、生徒にきまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を77%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「あいさつ指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を77%以上にする。
- ・令和4年度同アンケートにおける「登校指導に少しでも参加するよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を65%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。

C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・今年度、生徒が中心となって校則の見直しを図り、生徒が主体的に校則を守ることができるよう取り組みを進めた。しかし、令和4年度後期の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が64%となり、前年度の66%を下回った。校則への考え方方が多様化する中で、今後も生徒が中心となって、校則を守ることの呼びかけやより良い校則への見直しを図っていきたい。

<p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度後期の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、生徒にきまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が71%（目標77%以上）だった。 令和4年度後期の学校生活アンケートにおける「あいさつ指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が77%（目標77%以上）だった。 令和4年度後期の学校生活アンケートにおける「登校指導に少しでも参加するよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が69%（目標65%以上）だった。 令和4年度後期の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が64%（目標66%以上）だった。 	<p>次年度への改善点</p>
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度後期の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、きまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が71%となり、目標77%、前年度76%を下回った。今後は、職員会議などを活用して、定期的に共通理解の徹底に努めていきたい。 	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（市-1 学-5）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の生徒観察と定期的に実態把握アンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。 アンケートを形骸化させないことを心がけ、アンケート結果は全校集会等で生徒に公表し、生徒が相談しやすい環境の構築を図る。 道徳教育を通じて内面的な指導を積極的に行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談を年2回以上実施する。 東中学校「いじめアンケート」に基づく道徳教育を実施する。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を86%にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。 令和4年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 令和4年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 	<p>B</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にするについては、今年度も100%を達成することを意識して取り組みを継続している。 令和4年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させるという項目について、本年度は1件（1人）起きている。今後も生徒の行動を注意するだけでなく、規範意識を高めていきたい。 	

次年度への改善点	
【目標設定】について	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「いじめについて考える日」を実施することができた。今年度も新型コロナ感染症対策のため生徒会の取り組みはなかったが、今後も生徒が主体的にいじめについて考え行動する取り組みを展開したい。 ・本校は「いじめ事案を予防する環境づくり」については充実した取り組みを実践できていると感じる。ただ、未だに「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」に対して肯定的な回答をする生徒が 100%にはなっていない。この点を考慮し、今後も教育活動にあたりたい。
取組内容④【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】(学-14)	<ul style="list-style-type: none"> ・所轄警察署による交通安全教室を年 1 回以上実施する。 ・全国的に年 2 回実施される「春・秋の交通安全週間」の前後、または各学期末に全校集会等で交通安全についての講話をを行い、交通安全や交通ルールを順守する態度を養う。
指標	B
指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 61% 以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	<ul style="list-style-type: none"> ・1 学期終業式に東警察署より講師を招き交通安全・防犯教室を実施した。また、2 学期には 1 年生対象に東警察少年係より、携帯の正しい使い方について講話をしていただいた。 ・全校集会では、生徒指導主事より校区内での交通事故などについて講話がなされている。また定期的に校区内巡視を実施するなど日常的に交通安全の確保に努めている。 ・長期休暇明けには「長期休暇を振り返ろう」という被害調査を実施し、生徒の学校外での生活についても把握に努めている。
【取組内容】について	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度後期の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 59% (目標 61% 以上) だった。 ・本年度も 1 学期終業式に東警察署交通係に来ていただき、交通安全に関する講話をしていただいた。 ・全校集会の時に生徒指導主事のほうから、交通安全に関する講話をを行い、注意を促しているが、信号を守らない生徒がいるなど、今後も啓発を続けていく必要がある。
次年度への改善点	
【目標設定】について	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年後期学校生活アンケート結果では、昨年度より下回っている。交通事故や犯罪、事故は予測が不可能であるため継続的に講話などを通して、生徒たちに交通ルールやマナーを順守する意識をさせ未然防止を図る必要がある。今後も全校集会での講話、定期的な巡視、リーフレットの配布などの啓発活動に努めたい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (健康教育部)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】(学-3) 防災に関する知識を深め、予防意識を高める。	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。 避難訓練を年2回実施する。1年生では防災に関する資料等を使い、災害に対して備える意識を生徒に持たせる。 火災に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を、6分20秒以内におさめる。 地震に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を、グラウンドへの避難は7分以内、階上への避難は5分40秒以内におさめる。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果は、昨年度より-9ポイントの31%で目標値に達することはできなかった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 2回目の火災に伴う避難訓練は、延期により1月の実施となった。新型コロナ対策を取りながら実施し、時間は4分57秒であった。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度の検討事項として、例年通りに整列して避難するのか整列せずに避難するのか、集合・点呼の方法、避難訓練を実施するのを教科の授業時間にするなどを見直し・検討していくたい。 	
取組内容②【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】(学-1) 日常の清掃活動を充実させ、自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 月1回美化点検を行い、取り組んだ結果を美化委員に確認させる。 学期に1回清掃用具点検活動を美化委員を中心に行う。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「美化活動(清掃活動)に、積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を53%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「清掃活動は行き届いている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」答える教職員の割合を、49%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果は目標より-1ポイントの52%で、教職員のアンケート結果は、49%で目標を達成した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 美化委員会では、例年通り美化点検を毎月行った。破損点検は、普通教室に加え、特別清掃分担区域も取り組んだ。 	

次年度への改善点	
【目標設定】について	
<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会で取り組んだ破損点検を、来年度も計画していきたい。また、新校舎完成後は、新しく清掃分担が増えることが考えられ美化委員会の活動内容も検討・準備していく。 	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-13) 性教育の系統立てた指導を実施する。	
<hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性について考え、自己の生き方を考える意識の向上をめざすために、各学年3~4時間の授業を実施する。 ・取組後の事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果は、昨年度より-6ポイントの52%で目標値に達することはできなかった。 	
【取組内容】について	
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、講師の方に来ていただき、ティーンズヘルスセミナーを1月に実施した。 ・2年生は、学年自作のアンケートから始めて、交際についての性被害に遭わぬいための内容で6月に実施した。 ・3年生は、講師の方に来ていただき、7月に実施した。 	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も学年の状況に合わせての性教育進めていく。また、前年度の内容を元に指導案を作成する時についても、資料・アンケートなど内容を確認・検討して活用していく。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (人権道徳委員会)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-1 学-5) 道徳の年間指導計画を作成し、授業時数の確保に努める。また、各学年で道徳の実践記録を作成し、生徒の課題に応じて適切に授業内容を充実させる。	
<hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業時数が、年間で35時間を越えるように計画し、実践する。 ・各学年で道徳教科書の読み物教材を漏れなく行い、ワークシート・道徳ノートを使用し、適切な文章表記による評価を行う。 ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を80%以上にする。 ・令和4年度同アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。 ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している。」と最も肯定的に答える生徒の割合は 64% であった。
【取組内容】について	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習の試行などで道徳授業を行うなど、当初の年間計画からは変更があるが、各学年で道徳の授業時数が年間 35 時間を越えるように修正・計画している。 ・学校生活アンケートにおける「道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っていれる。」と最も肯定的に答える教職員の割合は 68% であった。 ・学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる。」と最も肯定的に答える生徒の割合は 68% であった。
次年度への改善点	
【目標設定】について	<ul style="list-style-type: none"> ・「より良い人間関係を築くために努力している。」と「命の大切さや社会のルールについて学んでいる。」のアンケート項目に最も肯定的に答える生徒の割合が目標に到達していない。来年度は達成できるように、各学年で道徳実践に丁寧に取り組んでいく。 ・「道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っていれる。」と最も肯定的に答える教職員の割合が目標に到達していない。来年度は達成できるよう、人権道徳委員会を中心に各学年の道徳授業の時間数確保を積極的に行い、実施計画の修正を図る必要がある。
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学一―学五)	<p>豊かな人権感覚の育成をめざし、人権学習の指導計画を作成する。前後期に集中実践を行い、授業展開を工夫して内容の充実を図る。</p>
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習の年間指導計画を作成し、前後期に各学年で 2 回集中実践を行う。 ・体験学習や外部講師の招聘、視聴覚教材の活用等を行う。 ・令和 4 年度の学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 60% 以上にする。 ・令和 4 年度の学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71% 以上にする。
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」と最も肯定的に答える生徒の割合は 64% であった。
【取組内容】について	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の集中実践として各学年で平和学習を行い、後期の集中実践も予定通り計画・実施している。 ・2 年生では視聴覚教材を活用して平和学習を行い、1 年生は外部講師を招いて障がい者学習を行った。 ・学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している。」と最も肯定的に答える教職員の割合は 54% であった。

次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」と最も肯定的に答える生徒の割合が目標に到達していない。来年度には達成できるように、各学年で後期の集中実践に向けて丁寧に計画し、取り組んでいく。 ・「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している。」と最も肯定的に答える教職員の割合が目標に到達していない。来年度には達成できるように、集中実践の内容を見直していく。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (特別支援教育委員会)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-11) 「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、保護者との面談を行い、個々の障がいの状態等を踏まえたうえで計画を立てる。また、合理的配慮の観点から、特別支援学級に在籍する生徒の困っていることや、求めていることを知り、支援する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、保護者及び関係諸機関等と連携し、必要に応じて加筆・修正する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、小学校からの引継ぎや中学校生活の様子をもとに、計画を立て、1学期末の懇談時に保護者へ渡した。修正点があれば、随時修正した。計画に基づき、支援を行っている。 	
次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学校が協力して生徒の支援を進めるため、今後も日々の学校生活や学校行事での生徒の様子を保護者に伝えていく。また、保護者の思いや願いも「個別の教育支援計画」に反映できるように、家庭との連携を行っていく。 	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-11) 「個別の指導計画」について、学期ごとに目標を定め、生徒の自立に向けて支援する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、保護者と目標の達成状況を共有する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】について <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに短期目標の達成状況を本人、保護者と確認した。達成状況をもとに短期目標を立て、支援することができた。 	
次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況や本人、保護者との話し合いを「個別の指導計画」に反映させ、今後の支援に役立てていく。 	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-11) 特別支援教育委員会において、通常学級担任・特別支援学級担任や教務主任・生徒指導主事も含めて生徒の情報を共有する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回、特別支援教育委員会を実施し、生徒の状況について情報を交換する。 	

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を76%にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は前期75%、後期は83%であった。

【取組内容】について

- ・日頃より通常学級担任との情報共有に努めている。また、2か月に1回の特別支援教育委員会や学年会などでも、情報共有に努めている。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・今後も特別支援学級在籍生徒が、学級や学年の一員として、充実した学校生活を送れるように支援していく。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (進路)

進捗状況

取組内容①【基本的な方向 8 生涯学習の支援】(学-6)

3年間を見通した指導計画を立て、生徒自らが個性を伸ばし、自己実現をめざしてその生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、主体的に進路選択ができるようになる。

指標

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切にして、主体的に考えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を59%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切にして、主体的に考えている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より3ポイント減少して55%であり、目標値を下回っている。しかしながら、3年生だけに限れば75%に達しているので、将来の生き方を本格的に考えるべき立場の生徒は、ある程度考えることができているようである。

【取組内容】について

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることもなく、今のところ生徒への進路情報の提供は、ある程度いきわたっているように思われる。進路通信や学年集会での呼び掛けだけでなく、普段の授業中においても、機会があれば情報提供をするように心掛けてきた。また、進路に関する話をするときには、『自らの手で納得のいく進路を獲得する』という姿勢をベースに行うようにしてきた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・1年生では「職業講話」、2年生では「職場体験」(本年度は代替の進路学習を実施)の取組だけで進路指導を終えてしまうのではなく、普段からの呼び掛けや啓発活動を大切にして、継続的に『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ことのできる進路指導を行っていきたい。

取組内容②【基本的な方向 8 生涯学習の支援】(学-4)

進路についての理解を深めさせるために、体験学習・学校説明会への参加案内発行や進路説明会開催などによる進路情報の提供、進路資料を活用した学級活動や進路相談を行う。

指標

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「提供された進路の情報をきちんと理解できている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を46%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を47%以上にする。

B**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析****【年度目標】について**

- ・「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より1ポイント減少して46%であり、目標値を下回っているが、3年生だけに限れば59%に達している。新型コロナウイルス感染症の影響により、対話すること自体が制限されている中、教職員の普段からの丁寧な声掛けが、一定の評価を受けているものだと思われる。

【取組内容】について

- ・「提供された進路の情報をきちんと理解できている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より2ポイント増加して45%であり、目標値を上回った。特に、3年生だけに限れば65%に達した。進路通信の発行や学年集会での呼び掛けによる情報提供をこまめに行ってきた。また、体験学習や学校説明会への参加については、大量に送られてくる案内のほとんどを生徒に提示して、参加を呼び掛け、それを促してきた。1・2年生が参加しても良いものについても、1・2年生に呼び掛けてきた。

次年度への改善点**【目標設定】について**

- ・進路説明会等を活用して、進路情報の収集及び整理をさらに図っていきたい。そして、進路指導委員会を中心に情報の共有と組織的な解析を進めながら、全教職員が共通理解を図り、生徒・保護者に対してきめ細やかな進路指導を行えるようにしていきたい。特に、生徒一人ひとりに対して、普段からの細やかな声掛けや丁寧な説明を心掛けていきたい。

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-6)

1年生での「職業講話」、2年生での「職場体験」、3年生での「プレハイスクールセミナー(出前授業)」という系統的なキャリア教育を通じて、将来の進路や生き方について考えさせ、社会の一員としての在り方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成する。

指標

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする。

B**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

<p>【年度目標】について</p> <p>・「将来の進路や生き方について考えたことがある」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より 4 ポイント減少して 59 %であり、目標値を下回った。しかしながら、3 年生に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンスクールや入試説明会の開催や参加に制限がかかる中、早くからの参加が見られたり、2 学期に入ってからは希望の進路先への質問をしてきたり等、少しづつ進路決定への興味関心が高まっていき、67 %に達した。</p>										
<p>【取組内容】について</p> <p>・3 年生については、7 月に「プレハイスクールセミナー(出前授業)」を無事行うことができ、将来の進路や生き方について考えるきっかけとすることができた。1 年生は「職業適性の取組」を 3 月に、2 年生は「職業講話」を 2 月に実施予定である。</p>										
次年度への改善点										
<p>【目標設定】について</p> <p>・1 年生、2 年生の割合については、学年での進路の取組がまだ行われていないこともあり、それぞれ 52 %、60 %である。将来の進路や生き方について興味を持たせることができるような取組にしていきたい。3 年生については、これから本格化する進路相談・進路懇談について、学年間の連携を密にし、その中身を充実させることで、将来の進路や生き方を十分に考えさせていきたい。</p>										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; text-align: center;">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第1学年)</td> <td style="padding: 5px; text-align: center;">進捗状況</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; border-top: 1px dashed black;">取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5) 道徳授業、学年集会、日々の学活等の様々な体験学習を通じ、素直な気持ちを育むと共に、他を思いやる心を育てる。</td> <td style="padding: 5px; border-top: 1px dashed black;">C</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">指標</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">・令和 4 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71% 以上にする。</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> </table>	年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第1学年)	進捗状況	取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5) 道徳授業、学年集会、日々の学活等の様々な体験学習を通じ、素直な気持ちを育むと共に、他を思いやる心を育てる。	C	指標		・令和 4 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。		・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71% 以上にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第1学年)	進捗状況									
取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5) 道徳授業、学年集会、日々の学活等の様々な体験学習を通じ、素直な気持ちを育むと共に、他を思いやる心を育てる。	C									
指標										
・令和 4 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。										
・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71% 以上にする。										
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析										
<p>【年度目標】について</p> <p>・令和 4 年度後期の校内調査において、認知したいじめは 1 件あった。すぐに指導し、現在も継続指導中である。</p>										
<p>【取組内容】について</p> <p>・令和 4 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 53% で目標を 18 ポイント下回った。</p>										
次年度への改善点										
<p>【目標設定】について</p> <p>・今後もいじめのない学年づくりをしていきたい。集会や学活での人権教育を充実していく。また人権の大切さについて学んでいると感じれるように、話す内容も厳選していきたい。</p>										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px; text-align: center;">取組内容② 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2)</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> </table>	取組内容② 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2)									
取組内容② 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2)										

<p>ルールや時間を守り、元気よくあいさつのできる前向きな生活態度を持つ集団を育成する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を68%以上にする。 	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は62%で目標を4ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は62%で目標を6ポイント下回っている。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 登校時間や集会の集合、授業開始チャイム前着席など、時間を意識した行動はできている。間違ったことがおきても、仲間どおしで注意ができるような集団育成をしていく。 <p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-2)</p> <p>班活動・委員会活動などを通じ、よりよい人間関係を築き、自主的・実践的な態度を育成する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。 	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は62%で目標を9ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は43%で目標を8ポイント下回った。 	
次年度への改善点	

<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 一年間を通して見ていく中で、お互いを尊重する姿勢も多くみられた。また役割を果たそうとする姿も見られた。今後は学校の中心となるような人材育成をしていく。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第2学年)</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2)</p> <p>集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。</p>	<p>C</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を68%以上にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は61%で目標を下回った。 	
<p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は54%で目標を下回った。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 完璧に全て「守っている」と自信をもっていえる生徒を増やすため、班活動・委員会活動を通じてルールを守ることの大切さや意味を発信していきたい。 マスクに甘えず積極的にあいさつできるよう、集団活動・班活動・行事を通じて精神面の成長を図る。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5)</p> <p>中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。</p>	<p>C</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。 	<p>C</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度後期の校内調査では、いじめ事象はなかった。 	
<p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は66%で目標を下回った。 	
<p>次年度への改善点</p>	

<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の取り組み・集団行動・班活動・係活動・委員会活動・道徳授業をとおして、助け合うことの大切さ思いやるこころの尊さを伝えていく。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2)</p> <p>道徳授業や学年集会・班活動・係活動・委員会活動を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。 ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。 	C
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は63%で目標を下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は47%で目標を下回った。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、それぞれ一人ひとりが自分の役割を全うし、達成感を感じる場面を増やす。 ・最高学年として、「進路選択」の大事な学年として大きく成長させられるようかかわっていきたい。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第3学年)</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2)</p> <p>集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。 ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「あいさつなどを積極的に行ってている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を68%以上にする。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は68%で、年度目標及び取り組み内容の指標を2ポイント上回っている。 <p>【取組内容】について</p>	

- ・令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は61%で、取り組み内容の指標を7ポイント下回っている。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・3年間を通しては、目標値よりも若干の下回ったが、子どもたちから「あいさつや言葉遣い、ルールを守ることを東中学校で身につけた」との発言や表現をしているところをよく見かけた。そのため、規則を守り、きちんとあいさつをする東中学校が大切にしてきた伝統を35期生として、受け継ぐことができたと考える。4月から始まる新たな進路での生活においても大事にして欲しい。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5)

中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。

指標

- ・令和4年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を74%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】・【取組内容】について

- ・令和4年度の後期の校内調査において、いじめ事象は1件あった。発覚次第指導・家庭連絡等を行っている。現在も継続指導中である。
- ・令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は68%で、年度目標及び取り組み内容の指標を6ポイント下回っている。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・卒業に向けてそれぞれが自分の役割を果たし、学年目標である<「十人十色」一人ひとりがメインカラー>という他を認め、他と協力する気持ちを育んでいきたい。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】(学-2・6)

一人ひとりが目標を持ち、すべての授業・班活動・係活動・委員会活動・学年集会を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。

指標

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶように努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】・【取組内容】について

・令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は67%で、年度目標及び取り組み内容の指標を1ポイント上回る結果となった。

・令和4年度の後期学校生活アンケートにおいて、「自ら学ぶように努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%で、年度目標及び取り組み内容の指標を8ポイント上回る結果となった。

次年度への改善点

【目標設定】について

・担任と生徒で行う進路相談、進路学習、進路懇談会などを通して、将来のことを考える機会を提供し、自らで考え、学ぶ意欲を向上させることができた。この気持ちを忘れず、卒業後も考え、行動できる人間として成長し続けることを期待したい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（校長経営戦略支援予算基本）

進捗状況

取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学-1）

1年の一泊移住、2年の校外学習、3年の修学旅行における活動を通じて、互いに協力し、支えあい、認め合う姿勢を養い、安全・安心な学校生活を築く。

指標

B

・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】・【取組内容】について

・学校生活アンケートにおいて、後期の結果は64%で、目標を下回った。しかしながら、肯定的回答全体を確認すると、その割合は昨年度の94%を上回って95%となっている。学年では、生徒の現状に合わせ各行事を計画して実施しており、取組には十分な生徒への好影響があることがわかった。事前の生徒たちへの説明、調べ学習等を皮切りに、安全を確保した当日の実施、そして実施後の行事、生徒個人、そして学年全体の振り返りを丁寧に行っていることが土台となっていると考える。

次年度への改善点

【目標設定】について

・感染症の流行に多少の陰りが見えるとはいえ、なかなか諸活動の制約が解除されない中、先生方の工夫を凝らした活動で、生徒たちはできることに十分取り組んでいる。最も高い指標を高めていくべく、次年度の活動にはより各取組を進化させていくことが求められるが、生徒全体にはこの上なく意識されていることがわかるため、引き続き各行事を丁寧に実施することを考えたい。

取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学-12）

文化発表会や日々の授業において、鑑賞や体験学習などの中で、歴史文化や伝統ある文化に触れ、表現の豊かさや美しさ、すばらしさを感じることで感性や情操を高める。

指標・令和4年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習（行事や授業など）を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を56%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】・【取組内容】について

・学校生活アンケートにおいて、後期の結果は 50% となり、目標を下回ったが、前期に比べ、6 ポイントの向上が見られている。また、肯定的回答全体を昨年度と比較すると、前年度は 89% だったものが、今年度は 91% と上回った。日常の授業以外で歴史文化や伝統あるものを体験する機会が年々減少しているものの、生徒会の活動や、文化発表会の中で、歴史や伝統を感じることのできるこの地域を取材、紹介した映像が作成されており、制約の多い教育活動の中で、工夫を凝らした取り組みを行ってきたことが好影響を与えていていると考える。

次年度への改善点

【目標設定】について：鑑賞や体験が年々減少しつつあるが、歴史や伝統への興味関心を向上させ続けることは困難ながらも進めていかなければならない。その中で、形を変えながらでも鑑賞や体験を用意すること、また歴史や伝統に興味関心を生徒に持たせることの両者が叶うよう、工夫した教育活動を計画していきたい。これにより今年度は広く多くの生徒に広めた意識をより深化させていくことを目指したい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (管理職)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協労した教育の育成】(学-8) 各種行事や PTA 活動等を通じて開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域が相互に協力する体制を構築する。	
指標・令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事や PTA 活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 31% 以上にする。また、令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 56% 以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】・【取組内容】について

・学校生活アンケートにおいて、後期の結果はそれぞれ 22% と 51% となっており、前期を上回ったものの、目標は下回った。しかしながら、肯定的回答全体で比較した場合、保護者の割合は昨年度 83% に対して今年度は 82% とほぼ変わらず、教職員の割合は昨年度と同じく今年度も 100% となった。今年度は、参観時には、駐輪場の整理や受付の役割を支援員やサポーターの協力を得て教員を授業中心に配置したこと、体育大会では保護者と子どもたちの動線を全く分け、受付や誘導を分けたことなど、保護者や地域の方と教職員とがかかわる場面が減少した部分があった。しかし一方で、祭礼巡視や地域のコンサート、地域防災避難訓練、PTA スポーツ大会など、これまで通り保護者や地域の方とかかわりが継続してきた部分もあり、コロナ禍においても教職員の協力が形となっていると考える。

次年度への改善点

【目標設定】について

・これまでと比較し、相対的には子どもや教職員と、保護者や地域の方とが関わる回数が減少したところがあるが、保護者の間にも、学校の諸活動のなかで教職員と協働しているという意識は広まっている。次年度も今年度同様、工夫を凝らしながら、目標達成に向け、働き方改革や感染症対策も考慮に入れながら今後の目標を設定していきたい。

大阪市立東中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を51%以上にする。 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 大阪市英語力調査におけるCEFRA1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を61%以上にする。 令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を54%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和4年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を26%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を66%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を76% 	B

以上にする。

10. 令和4年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (教務部)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1 学-2) 言語活動の取り組みをすべての教科で取り入れ、思考力・判断力・表現力・読解力の育成を図り、学力向上に生かす。	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を51%以上にする。言語活動を取り入れた授業を、すべての教科で、年1回の公開授業において行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は74%で、目標を上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合は49%で、目標に少し届かなかった。9月から10月にかけて、思考力・判断力・表現力・読解力の育成を目標に、全教職員の言語活動を取り入れた公開授業を実施した。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">公開授業・研究授業等、研修を生かし、今後も授業改善に努める。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-2・3) 授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を単元ごとに作成、提供し、自主学習の習慣を定着させる。自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。	
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none">家庭学習教材を授業ごとに提供する。	
<ul style="list-style-type: none">令和4年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を昨年度と同等以上にする。令和4年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や家庭学習の習慣を身につけるために、保護者に対して様々な働きかけをしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を昨年度と同等以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語では前年度（3年1.14 2年1.11）と比較すると、3年生は0.04ポイント上回ったが、2年生はほぼ同じであった。また、数学では前年度（3年1.21 2年1.15）と比較すると3年生は0.02ポイント下回ったが、2年生は0.09ポイントと大幅に上回った。
- ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は76%となり、目標値を大幅に上回った。

【取組内容】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は38%で、昨年度をわずかに下回った。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や家庭学習の習慣を身につけさせるために、保護者に対して様々な働きかけをしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は29%で、昨年度を14ポイント上回った。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・チャレンジテストの結果だけでなく、基本的な学力向上に向けて、ICT機器の利用も視野に入れた予習・復習に活用できるような家庭学習教材の提供や、自主学習を促すような授業・教材をより工夫し、提供できるようにする。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-2・3）

教科の年間指導計画及びシラバスを作成し実践する。また、「シラバス・通知表の見方」を用いて、評価についての保護者向けの説明会を実施する。

指標

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を昨年度と同等以上にする。また、絶対評価について、シラバスをもとに保護者集会を開き、説明を行う。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語では前年度（3年1.14 2年1.11）と比較すると、3年生は0.04ポイント上回ったが、2年生はほぼ同じであった。また、数学では前年度（3年1.21 2年1.15）と比較すると3年生は0.02ポイント下回ったが、2年生は0.09ポイントと大幅に上回った。
- ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は76%となり、目標値を大幅に上回った。

【取組内容】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は76%で、昨年度をわずかに上回った。
- ・シラバスについては、新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者集会を実施することができず、クラスでの配布にとどまっている。保護者に対しての詳しい説明はできていない。

次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> 保護者集会を開くことが難しくなっているため、授業や懇談会・集会等で、学習内容・学習方法・評価方法等を保護者や生徒に理解してもらえるよう努める。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (国語科)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-2) 国語を適切に表現し、自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりを行う。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年1.11、2年1.11）より向上させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の中学生チャレンジテスト3年生における対府平均比は1.14となり、前年度より上回った。また、2年生における対府平均比は1.11となり、前年度同等であった。 	
【取組内容】について <ul style="list-style-type: none"> 国語科の教員間での授業見学や授業改善などが行われている。 	
次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> 引き続き目標達成に向け、授業の創造と教材づくりを行う。 	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-1・2) 計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える児童(生徒)の割合を66%以上にする。 	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は74%となり、目標を3ポイント上回った。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える児童(生徒)の割合は43%となり、目標を下回った。 	
【取組内容】について <ul style="list-style-type: none"> 3年生では習熟度別少人数授業を実施しているが、休校などの影響により、不定期になってしまった。1、2年生については、期間や実施方法が限られている中での実施のため、学校生活アンケートが低い結果となったと考える。 	

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・目標を達成している項目がある反面、目標を下回っているため、「個に応じた教育」をより生徒に実感してもらえるような工夫を行い、習熟度別少人数授業を計画的に実施していく。

取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1 学-3)

国語を学ぶ上で基礎基本となる語彙力を高め、言語を通した思考力を育成する。

指標

- ・漢字能力検定試験を、希望者を対象に年に2回以上、校内で実施する。漢字学習の動機づけとともに、中学校配当漢字を網羅した漢字能力検定への取組を通じて、語彙力を向上させる。また、受検の有無に関わらず、語彙力を向上させ、「漢字を文や文章の中で使うことのできる力」を身につけさせる。
- ・自分の考えを言語で表現できる授業展開を工夫し、学校生活アンケートで「授業終了まで授業に集中していた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、昨年度と同等以上(47%)にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を26%以上にする。
- ・図書室を利用した授業を全学年で合計30回以上実施する。図書室での授業を通して、資料等を活用し、自分の思考をまとめ、表現する方法を身につけさせるとともに、読書活動の推進を図る。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合を前年度(51%)より増加させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・7月8日に行われた第一回漢字能力検定では、84名の生徒が検定を受験した。11月4日に行われた第一回漢字能力検定では、55名の生徒が検定を受験した。
- ・学校生活アンケートで「授業終了まで授業に集中していた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は47%となり、目標を達成した。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は29%となり、目標を達成した。
- ・図書室利用に関しては、本年度も地域の協力や図書委員の取り組みなどもあり、多くの生徒が利用している。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合は49%となり、目標を2ポイント下回った。

【取組内容】について

- ・思考力を高めるための話し合い活動や調べ学習を引き続き行う。

次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年と比較し、望ましい結果を出している項目が多い反面、目標を下回っている項目が 1 つあるため、授業の取り組みにおいて言語活動や話し合い活動の実践回数を増やすなどの対策を行い、すべての目標達成をめざす。 次年度においても漢字検定を年間 2 回実施し、学習の基礎となる漢字力を高める取り組みを行う。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (社会科)	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-2)</p> <p>単元ごとの復習プリントを活用し、授業の内容を確認させ、さらなる学習理解をはかり、基礎的・基本的な学力の向上を図る。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（3 年 1.15）より向上させる。 令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「社会の授業に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 51% 以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比は 1.21 となり、前年度より上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度の後期学校生活アンケートにおける「社会の授業に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 56% で目標を 5 ポイント上回った。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「社会の授業に主体的に取り組んでいる」の項目は学年間で差があるので、今後どの学年でも上回れるよう授業改善していきたい。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-7)</p> <p>国内だけでなく、国際社会に起こる社会的事象に対する興味・関心を高め、国際社会において生き抜く力を育成する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業においては、社会事象に関する話題を取り上げ、また、定期テストにおいても時事問題を取り入れた設問を出題する。さらに、令和 4 年度の学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 55% 以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度の後期学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 52% で目標を 3 ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も目標の達成に向けて取り組みを進めていく。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き時事問題に関する話題を取り上げ、興味・関心をもつよう指導していく。 	

<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1、学-2) 調べ学習や課題解決を通して自分の考えを深めたり、広げたりする学習を行い、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、前年度(51%)より増加させる。 	B		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
<p>【年度目標】について</p>			
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を74%で目標を3ポイント上回った。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合は49%で、目標を2ポイント下回った。 			
<p>【取組内容】について</p>			
<ul style="list-style-type: none"> 下回った原因として、昨年同様、感染防止対策として言語活動を取り入れる授業展開がまだまだ充実できていないからだと考えられる。 			
次年度への改善点			
<p>【目標設定】について</p>			
<ul style="list-style-type: none"> 今後も感染防止対策を講じながら、できる限り目標達成にむけて工夫していく。 			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; background-color: #cccccc;">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (数学科)</th> <th style="text-align: center; background-color: #cccccc;">進捗状況</th> </tr> </thead> </table>	年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (数学科)	進捗状況	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (数学科)	進捗状況		
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1・2) 基礎的・基本的な概念や知識の定着をめざすとともに、数学的活動を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p>			
<p>指標</p>	B		
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度(3年1.21 2年1.15)より向上させる。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度(51%)より増加させる。 			
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
<p>【年度目標】について</p>			
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比は1.19で、同一母集団で比較すると、昨年度2年1.21より0.02下回った。 令和4年度の2年中学生チャレンジテストにおける対府平均比は1.24で、同一母集団で比較すると、昨年度1年1.15より0.09上回った。 			

<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は49%で、昨年度より2ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートにおいて、昨年度から2ポイント下回っている点について、コロナ禍の影響により、授業中の話し合いが少ないと原因だと考える。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年の数学科の授業において、主体的、対話的な学習活動を意識して行う。 	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-1)</p> <p>計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数授業を通年で計画的に実施する。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「数学の習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。 	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数授業について、3年生は計画的に行うことができた。1, 2年生においては、実施回数が少なくなってしまった。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は47%で、昨年度(59%)より12ポイント下回った。習熟度別少人数授業を計画的に行えている3年生については、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は60%で、前期(58%)、昨年度2年(52%)より上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生については、習熟度別少人数授業を週3時間行えているが、1, 2年生については、現実なかなか実施できていない。そのことが同アンケートの結果が芳しくない原因だと考える。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数授業の実施回数を増やすことは難しいため、授業内容の充実・改善に努める。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (理科)</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-2)</p> <p>自然現象に対して自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりを行うとともに、演示実験やプリント教材を有効に活用し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。 令和4年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度(3年1.09)より向上させる。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は62%であり目標を3ポイント下回った。
- ・令和4年度の中学生チャレンジテストにおける3年生の対府平均比は1.13となり、前年度より0.04ポイント上回った。

【取組内容】について

今年度も、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、理科室の使用を中止した。教室で実験を見せられるように、教師の演示実験や、書画カメラ等ICT機器の活用を行ってきた。また、生徒参加型の演示実験を工夫したり、理科係の生徒と実験動画を作ったりするなど、生徒の興味関心を引き出す努力をした。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・次年度も、生徒の興味関心を引き出す教材について検討していく。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1 学-2)

実験・観察を多く取り入れことにより、理科に対する興味・関心を高め、様々な自然現象について論理的に説明する能力を育成する。

指標

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「理科の学習に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を54%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度(51%)より増加させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「理科の学習に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を55%であり、目標を達成できた。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は74%であり、目標値を達成できた。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は49%であり前年度を下回った。

【取組内容】について

- ・授業に話し合い活動を取り入れる工夫はまだ不十分で、参加できていると感じている生徒は9割程度いると考えられるが、話し合い活動の中で自分の考えを深めたり広げたりできていると強く感じている生徒はまだまだ少ない。

次年度への改善点	
【目標設定】について	
・次年度は、教師の発問や話し合い活動の取り入れ方など、授業のなかで生徒がクラス全体の話し合う活動を意識できるように工夫していく必要がある。	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (音楽科)	B
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-2) 基礎発声の継続的な練習と、感性を育て表現力を培うためのよりよい教材の精選、生徒の興味・関心を生かした意欲的な学習を行う。	
指標	
・学期に1回、歌唱もしくは器楽の実技テストを行い、表現活動における個々の次の目標設定に役立てる。 ・令和4年度学校生活アンケートにおける「音楽の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を59%以上にする。 ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・全市共通目標1の達成に向けて、班やグループでの話し合う活動を取り入れた。また、学校園の年度目標5の達成に向けて、ICT機器を用いた資料の提示などを行った。	
【取組内容】について	
・実技テストは学期に一度のペースで行った。2, 3年生においては、授業時間確保との両立のために、タブレット端末を活用し実技テストは動画での提出などを行った。 学校生活アンケートの生徒の回答については、54%と指標を下回っているが約9割は達成している。学年ごとに数値にばらつきがある。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・タブレット端末を活用することにより、実技評価のための時間確保と、授業時間の確保を両立できる形が見えたため、来年度も改善しつつ活用していく。生徒アンケートの数値には学年ごとにばらつきがあるため、特に低かった学年には、生徒がより主体的に活動できるように授業の進め方や形態を工夫する必要がある。来年度も引き続き、クラスの仲間と協力して一つのものをつくりあげることや表現することの喜びや楽しみを感じられるように、知識の習得だけでなく体験にも重きを置いて授業を行うことを目標とする。	C
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1) 幅広い音楽分野の表現と鑑賞活動により、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じとり、表現の創意工夫につなげていく。	
指標	
・全学年とも学期に一回鑑賞を行う。その際、西洋音楽に偏らず、世界の民族音楽や日本の伝統音楽なども取り上げる。 ・令和4年度学校生活アンケートにおける「授業で習った曲に興味を持つことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする。	

- 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（51%）より増加させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 全市共通目標1の達成に向けて、班やグループでの話し合う活動を取り入れた。また、学校園の年度目標5の達成に向けて、ICT機器を用いた資料の提示などを行った。

【取組内容】について

- 鑑賞活動については、各学年1学期に一度行った。学校生活アンケートの生徒の回答については、45%と目標を下回った。

次年度への改善点

【目標設定】について

生徒アンケートについては目標を下回ったが、来年度も、時間が限られている中でも、音楽を聴くことと、そこから自分の感じたことや考えたことを言語化するということを、できる限り行っていく。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (美術科)

進捗状況

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(学ー2)

発想力を豊かにし、知識・技能の向上に努め、意欲的に表現活動に取り組む態度を育てるため、取組内容や教材を精選する。

指標

- すべての題材で言語活動の充実を図り、振り返り用のプリントを利用して学習内容の定着を図る。
- 令和4年度末における同アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、全体の68%以上にする。
- 令和4年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。

C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 令和4年度後期の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は74%（目標71%）だった。

【取組内容】について

- すべての題材で振り返り用のプリントや作品紹介カードなどをを利用して学習内容の定着および言語活動の充実を図った。
- 令和4年度後期における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、全体の55%（目標68%）だった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- 学校生活アンケートの生徒の回答結果が目標値に届かなかった。また昨年度と比べて12ポイントと大きく下回った。題材によって得手不得手があるため、回答時期によって結果にばらつき

<p>があることは予想されるが、下がり幅が大きく反省点である。意欲的に取り組む姿勢を引き出す導入・展開について、より研究をしなければならない。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-1)</p> <p>造形的なよさや美しさ、素材の生かし方、作者の心情や意図と造形的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう力を養うため、鑑賞活動の充実を図る。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年において、鑑賞活動を主とした単元を前後期各 1 回ずつ行う。 令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度 (51%) より増加させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度後期の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、全体の 49% (目標 51%) だった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞活動を主とした単元を、2・3 年生において前後期に 1 回ずつ実施した。1 年生は本年度より前期の授業時数が減ったため、後期に 2 回実施した。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートの生徒の回答結果が昨年度と比べて 2 ポイント下がった。 時数と評価観点の変更により、鑑賞活動を主とした単元を必ずしも複数回導入する必要はないように考えられるため、来年度以降の検討事項としたい。しかし授業での回答は肯定的なものが多くたため、今後も継続して導入時など積極的に鑑賞活動を取り入れていきたい。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (保健体育科)	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(学-8)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初、男女共修での集団育成を重点的に行い、授業規律の確立、授業への意識の向上を図る中で授業効率を高め、運動量の確保に取り組む。 教科書やワークシートで知識の理解を深め、体育館に設置された ICT 機器を最大限に活用し、視覚的にもわかりやすい授業展開を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度に校内で実施をする第 2 学年の体力テストにおいて、令和 4 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均以上にする。 令和 4 年度に校内で実施をする第 2 学年の体力テストにおいて、令和 4 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価 (A~E) の内、AB-DE の数値を全国平均以上にする。 令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66% 以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p>	

- ・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点が全国平均より男子が2.4%、女子が2.2%上回った。
- ・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点が全国平均より男子ABが8%・DEが10.5%、女子ABが9.2%・DEが2.4%上回った。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は60%で目標を6ポイント下回った。

【取組内容】について

- ・男女共修で集団行動の行動様式の指導を徹底的に行うことができた。
- ・視覚的教材を多く活用することができた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・集団行動の行動様式の指導を徹底することによって、能率的に、安全に授業を展開する。授業規律を確立することにより、運動量を確保し体力の向上を図る。また、けがの未然防止に努める。
- ・ICT機器を活用し、興味や関心を持たせることに主眼を置き、わかる・できる（自主的、意欲的、積極的に参加できる）授業を実施する。
- ・目標設定の明確化し（個人の成長の記録含む）、主体的に学ぼうとする姿勢を醸成する。
- ・アクティブラーニング型（グループワーク、アウトプットできる）授業を展開し、課題解決能力を育成する。

取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】（市-4）

- ・体力テストの実施に向けて、昨年度の結果を再掲示するとともに自己の昨年の記録をもとに今年の目標を設定させることで、意欲的に体力テストに臨む姿勢を育てる。
- ・体力テスト実施後の結果について、一昨年度の全国・大阪府と比較分析したものを掲示し、自己の記録との比較を通して、課題を見つけさせるなど、生徒の意識向上を図る。

指標

- ・令和4年度に校内で実施をする第2学年の体力テストにおいて、令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、ABの割合を男子35%以上、女子65%以上にする。
- ・令和4年度に校内で実施をする第2学年の体力テストにおいて、令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、DEの割合を男子25%以下、女子15%以下にする。

C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるABの割合が男子39.4%で全国平均以上となった。女子62.8%で全国平均以下となった。
- ・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるDEの割合が男子23.0%で全国平均以下となった。女子15.7%で全国平均以上となった。

【取組内容】について

- ・昨年度の体力テストの結果を示し、今年度の目標を設定し取り組むことができた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・毎授業でランニング、柔軟運動、補強運動を取り入れた授業を実践する。また、単元ごとに必要ながらだづくり運動、神経系の準備運動を取り入れ、様々な体力の要素を高める。

取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(学-8)

- ・体力テスト・体育大会・マラソン大会・球技大会を日頃の体育の授業や部活動での成果を発揮する場として位置づけ、体育委員を中心とした主体的活動に取り組む。
- ・体育大会実行委員会活動や縦割り活動を積極的に行い、学年間の交流を深め、主体的に行事や授業に取り組ませることで効果的な伝承を図る。

指標

- ・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を54%以上にする。
- ・令和4年度の後期学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を58%以上にする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。
- ・体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動を本年度も年間を通して実施し、主体的に運動に親しむ機会を設ける。
- ・夏休みの水泳指導を実施する。

C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合は67.9%で目標を13.9%上回った。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は53%で目標を5ポイント下回った。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は49%で目標を2ポイント下回った。
- ・体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動は年間を通して実施できた。
- ・夏休みの水泳指導は2日実施できた。

【取組内容】について

- ・体育大会では体育大会実行委員を中心とした主体的活動に取り組むことができた。
- ・体育大会実行委員会の活動の中で、学年間の交流を深めることができなかった。また、縦割り活動を積極的に行うことができなかった。
- ・球技大会、マラソン大会では体育委員を中心とした主体的活動に取り組む予定である。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・生徒の主体的な活動が、体育大会や行事という期間限定の活動にならないようにする。そのために、各領域でグループワークの場を設定する。単元ごとに課題を提示し、課題解決に向けてグループで話し合いを実施する。また、生徒の能力に応じた活動場面をとらえて、各領域で多くの生徒にリーダーとなる機会を与え、集団に参加する態度を育てる。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (技術・家庭科)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-5) ICT 機器を活用した学習活動を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度の学校生活アンケートで「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、全体の 56% 以上にする。 令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71% 以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について <ul style="list-style-type: none"> 学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めていると、最も肯定的な答えた教職員の割合は 76% であった。 【取組内容】について <ul style="list-style-type: none"> 授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についたと、最も肯定的な答えた生徒の割合は 54% であった。 	
次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を多用して授業展開を図れたが、実習等においてもより効果的な活用方法を模索し、来年度はさらに丁寧な実習指導を心掛けて授業を行っていきたい。 	
取組内容②【基本的な方向 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1 学-2) 工夫し創造する能力の育成をねらい、言語活動を取り入れた授業実践を行う。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 3 年の指導計画を見通しながら、各領域で少なくとも 1 回は言語活動を取り入れた授業実践を行う。 令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71% 以上にする。 令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度 (51%) より増加させる。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について <ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めていると、最も肯定的な答えた教職員の割合は 74% であった。 【取組内容】について <ul style="list-style-type: none"> 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると、最も肯定的な答えた生徒の割合は 49% であった。 言語活動を各分野・内容項目で行うことができている。 	

次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を取り入れた授業実践はできているが、十分な時間を確保できていないことが反省としてあげられる。特に3年生は今年度から週1時間になったので、来年度はできる限り時間数を確保して言語活動のさらなる充実に努め、思考力・判断力・読解力の向上を図りたい。 	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-6)</p> <p>技術分野の学習において、論理的思考を促す授業展開を行う。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の学校生活アンケートで「技術家庭科（技術分野）の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を57%以上にする。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術家庭科（技術分野）の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができたと、最も肯定的な答えた生徒の割合は64%であった。 	
<p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記に同じ 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングは2・3年生の2月頃から毎年行うため、現3年生の割合のみとなっているが、昨年度の授業内容がある程度定着できたと考えられる。今後の現2年生のプログラミング学習も丁寧な指導を心掛けたい。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (英語科)	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-3)</p> <p>英語での表現活動を多く取り入れることにより、表現力を育成する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年1.18、2年1.13）より向上させる。 ・大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を61%以上にする。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストについて <p>3年生の対府平均比は1.20となり、前年度を上回った。2年生の対府平均比は1.19となり、前年度を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市英語力調査について <p>C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)は76%となり、目標値を大幅に上回った。</p>	
<p>【取組内容】について</p> <p>英語でのインプットをたくさんすることにより、効率的にアウトプットの活動を促すことができ、C-NETとのスピーキングテストや英作文などの表現力を育成できたと思われる。</p>	

次年度への改善点	
【目標設定】について	<p>様々な工夫をすることで、表現活動をあらゆる場面で取り入れることができた。今後も、授業の中で積極的に英作文やスピーチ活動を行うことで、表現力を育成できるように努める。</p>
取組内容② 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学-1）	<p>個に応じた指導方法を工夫し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。</p>
指標	C
・令和4年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	<p>・令和4年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は43%で、昨年度(55%)より12ポイント下回った。</p>
【取組内容】について	<p>・少人数で実施する分割授業のために使用できる教室との兼ね合いで実施できる時間が限られており、そのことが学校生活アンケートの結果に結びついている原因だと考える。今後は、授業内容の充実・改善に努める。</p>
次年度への改善点	
【目標設定】について	<p>・今後、習熟度別少人数授業の形態を熟考し、効果的に実施することで、基礎的・基本的な学力の向上を図る。</p>
取組内容③ 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-3 学-4）	<p>英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。</p>
指標	B
・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。	
・令和4年度同アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする。	
・C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業を、各学級あたり年間で15時間程度実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	<p>・学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は45%で、昨年度より2ポイント下回っている。</p>
・学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は45%で、昨年度より5ポイント下回っている。	
【取組内容】について	<p>・C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業は、1月末現在で3年生8時間、2年生11時間、1年生12時間実施した。コロナ禍での休校日もあり、また中学校での勤務日との兼ね合いで、各学級あたり年間15時間の実施は厳しい状況である。</p>

次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き、C-NET の先生との授業を活用し、可能な限り、話し合いの活動も実施していく方向で授業の改善を行っていきたい。また、授業の中で、生徒が積極的に参加できる様々なアクティビティを取り入れることで、英語を活用する力を伸ばしていきたい。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (健康教育部)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(学-9) 生涯にわたり健康な心身を保持増進できるように、生活習慣や自己管理能力を身につける。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 保健指導（保健だより・健康教室の開催など）を各学期に1回、定期的に行う。 ポスター掲示、プリントの配布などを通して、啓発活動を行う。 令和4年度同アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけていれる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を76%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果は、前年度より-1 ポイントの73%で目標値に達することはできなかった。 【取組内容】について <ul style="list-style-type: none"> 「保健だより」等のプリント配布や、ポスター掲示を通して健康に関する啓発を行っている。 各教室においても、換気を行い消毒液も設置して健康的な生活の維持に努めている。 体育大会では、生徒席の設定・競技に出場する時以外のマスクの着用・競技参加後の消毒・競技使用物品の消毒などを実施した。 	
次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> 今後も、手洗い・うがい・換気・消毒などの取り組みを継続して進めていく。 取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(学-10) 望ましい食生活を身につけさせ、「食」への意識を向上させる。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 月1回の『食育だより』を通じて、生徒や保護者に「健康や体力を保持増進する力」を育成する。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について <ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケートの結果は、昨年度より-2 ポイントの39%であり目標値に達することはできなかった。 【取組内容】について <ul style="list-style-type: none"> 「食育だより」を月1回のペースで発行している。 1年生では昨年度に引き続き、4月に食育の内容で授業を行った。 給食係が、朝食フォトコンテスト・食の作文コンクールの応募を行った。 	

次年度への改善点	
【目標設定】について	
・給食時間は限られた時間ではあるが、食事の準備から片付けも含めて食事の時間を大切にできるように生徒に働きかけていく。	進捗状況
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (人権道徳委員会)	
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-7) 基本的な道徳指導や人権尊重の姿勢について教職員が理解を深められるように、研修等の情報提供を行う。また、帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒についての情報共有や支援を適宜行い、違いを尊重し認め合える教育活動を展開していく。	
指標	A
・人権教育実践交流会、道徳学習会の参加を呼び掛ける。また、人権道徳関係の研修案内や通信の配付、ポスター掲示、回覧等で情報提供を適宜行う。 ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」と最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を66%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」と最も肯定的に答える教職員の割合は69%であった。	
【取組内容】について	
・人権道徳関係の研修案内や通信の配付、ポスター掲示、回覧等で情報提供を適宜行っている。また、今年度は人権教育実践交流会についての参加も呼び掛けていきたい。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・引き続き、道徳・人権学習教材の情報提供を積極的に行っていきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (校長経営戦略支援予算基本)	
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-2) 「地域探訪」と銘打った班別フィールドワークを実施し、地域の歴史や伝統文化に触れながら郷土大阪を愛する心を育み、地域社会へ貢献する態度と意識を養う。また、班で調べた地域の歴史や伝統文化についての内容を様々なスタイルを用いてプレゼンテーションすることで、PISA型学力の醸成による学力向上をねらう。	
指標	B
・他者や社会との関係だけではなく自己と対話をしながら自らの考えを深め、地域という自分自身の基盤の中で行動していくきっかけとなる班別フィールドワークを実施する。 ・課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力、多様な観点から考察する能力の向上をねらい、プロセス重視のプレゼンテーションを実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

【年度目標】・【取組内容】について

- ・地域探訪に関しては、第3学年では、修学旅行において、古都金沢のフィールドワークを、第2学年では、大阪探訪を、それぞれ学年の状況に合わせて計画し、実施した。その方法は、班別のフィールドワークであり、少人数の中での意見交流や計画作成を通じ、他者との対話の中での成長を期待しつつ行った。また、事後活動の中では、ICT機器なども使いながら壁新聞を作成するなども含めた表現活動を行い、他班の作品と競合しながら作成する過程で、独自の観点から思考、表現する活動を行った。主体的・対話的な学びを通して、行事ごとに振り返りを行いながら、個々人の内省を促し、つぎへの成長を期するPDCAサイクルに則って学びが行うことができた。

次年度への改善点**【目標設定】について**

- ・各行事における学びの場を、当日だけではなく事前の準備や学習活動の中で、また、事後の振り返りのように、表現や発表の活動の中に設けることで、令和6年度より実施予定の総合的読解力カリキュラムをにらみながら、主体的・対話的な深い学びを展開することで、行事による学びが効果的、効率的に高まると考える。そのため、今後においても、これまで各学年で取り組んでいたり、進めていきたい。

大阪市立東中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標</p> <ol style="list-style-type: none">1. ICTの活用に関する目標を設定する。<ul style="list-style-type: none">・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。・令和4年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。・令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする。2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。<ul style="list-style-type: none">・ゆとりの日を月1回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。・4~11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準2）を満たす教員の割合を30%以上にする。・令和7年度の4月~11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体で	B

Lv4 の割合を前年度より半減させるとともに Lv2 以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (ICT 教育推進部)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション)】(市-1) 個別最適な学びの推進に向けて、1人1台端末を活用した学習活動を実践する。あわせて、ICT 機器の整備と効率的な運用を図る。	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めていると、最も肯定的な答えた教職員の割合は76%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みのタブレット持ち帰りなど、1人1台端末を活用した学習活動を実践とICT機器の整備に取り組んでいる。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> Wi-Fiクリーメモのデジタル化など、さらに効率的にICT機器を活用できるように提案を続けていきたい。 	
取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション)】(市-1) 情報活用能力の育成に向けて、情報を正しく安全に利用できるように情報モラル教育について取り組む。	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットやSNSを正しく安全に利用できると最も肯定的に答える生徒の割合は67%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育を行う機会が道徳の授業や生徒会活動にとどまり、少なかった。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育の機会を多く作ることができるよう、計画する。 	

取組内容③【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）】（市-1）
子どもの理解を深めるとともに、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応を実現するため、心の天気・いじめアンケートなどを活用する。

B

指標

- 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用していると、最も肯定的に答える教職員の割合は69%であった。

【取組内容】について

- 心の天気、いじめアンケートは行っているが、いじめ・不登校などの防止対策として効果的に活用できていないと感じる場面がある。

次年度への改善点

【目標設定】について

- 心の天気、いじめアンケートや相談機能の活用を引き続き行い、生活指導部との密な連携を推進していく。

取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（市-1）

学校ホームページや保護者メールなどを活用し、東中学校の教育内容を広く保護者や地域に理解してもらう。

C

指標

- 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができると、最も肯定的に答える保護者の割合は55%であった。

【取組内容】について

- 学校ホームページや保護者メールの活用は行えているが、さらに積極的にアピールしていくことが必要であると考えられる

次年度への改善点

【目標設定】について

- 目標達成に向けて欠席連絡等アプリの活用など、新しい仕掛けが必要であると考えられる。

進捗状況

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（管理職）

取組内容①【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（市-1）

学校ホームページや保護者メールなどを活用し、東中学校の教育内容を広く保護者や地域に理解してもらう。（再掲）

B

指標

- 令和4年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよ

りなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 66%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・授業のようす(毎日発信)、学校行事や学年取組、部活動のようすなどをホームページに発信しており、閲覧数も 9 月の時点で、84,000 件に到達し、1 月の時点で、122,000 件のアクセス数となっており、大阪市でもベスト 3 に入っている。しかしながら、令和 4 年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合は前期 59%、後期 55%となつておらず、指標の 66%に到達することはできなかつた。ただその一方で、肯定的回答全体を見渡してみると、保護者の割合 97%にも上つており、昨年度の 96%を上回つた。保護者間での認知や意識を広めることについては十分できていると考える。
- ・今後についても引き続き学校のようすなどを情報発信していく。

次年度への改善点

【目標設定】について

昨年度は、コロナ禍で保護者が学校に来て、直接子どものようすを見る機会がとれなかつたため、ホームページを通して情報発信を行つておらず、閲覧件数も多かつた。今年度は、保護者の参加できる教育活動が増えてきている中、引き続き学校の教育活動の情報発信も行つた。保護者アンケートの結果が指標に達していないものの、肯定的回答全体では昨年度を上回つてゐるため、保護者間で広く認知されていると考え、ホームページのアクセス数が現状を保つことのできるよう、授業の様子についてはもう少し発信の工夫をしながら、また日々の学校生活の様々な場面の発信については、教職員で力を合わせつつ、これまで通りの工夫をしながら発信していきたい。

取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(市-2)

教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

大阪市が策定した「学校園における働き方改革推進プラン」に則つて、学校現場の負担軽減に向けた様々な取組を推進する。

指標

- ・4~11 月の 8 か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して(基準 2)を満たす教員の割合を 30%以上にする。
- ・令和 4 年度の 4 月~11 月までの 8 か月間の時間外勤務時間において、教員全体で Lv4 の割合を前年度より半減させるとともに Lv2 以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

(基準 2) ※基準 2 とはアイウエをすべて満たす教員

- ア 1 年間の時間外勤務が 720 時間を超えない
- イ 1 か月の時間外勤務が 45 時間を超える月を年間 6 回までとする
- ウ 1 か月の時間外勤務が 100 時間を超えない
- エ 連続する複数月(2, 3, 4, 5, 6 か月)のそれぞれの期間において、時間外勤務が平均 80 時間を超えない

- ・6月時点において、働き方改革プラン基準2を満たす教員の割合は44.2%となっており、指標の30%を超えていている。ただし、11月まで基準を達成できない教員が増加しないように意識を高めていきたい。
- ・9月の時点において、今年度のLv4(月100時間)を超える月は、のべ14回であった。これは前年度の9月時点がのべ18回であったのと比べて減少しているものの指標の半減には到達していない。また、9月時点で、各月の時間外勤務の平均を昨年度と比較すると次のような表となった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
R3	63h19	55h13	71h53	66h47	32h23	68h29	74h45	61h04	61h44
R4	72h06	67h04	57h33	49h48	28h25	61h14			56h42

年度当初の4,5月については増加しているものの6月以降は減少しており、平均については前年度よりも5時間程度減少している。

- ・11月の時点において、働き方改革プラン基準2を満たす教員の割合は、6月の時点で44.2%、11月の時点で39.5%となっており、指標の30%を超え、目標に達する結果となった。今年度のLv4(月100時間)を超える月は、のべ15回であった。これは前年度の11月時点がのべ26回であったのと比べて減少している。昨年度、文化発表会の時期には100hを超える教員がのべ8回あったのに対して、今年度は1回のみであった。指標の半減には到達していないものの大幅な意識の改革が見られた。また、11月時点で、各月の時間外勤務の平均を昨年度と比較すると次のような表となった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	平均
R3	63h19	55h13	71h53	66h47	32h23	68h29	74h45	61h04	61h44
R4	72h06	67h04	57h33	49h48	28h25	61h14	59h27	49h58	55h42

年度当初の4,5月については増加しているものの6月以降のすべての月において減少しており、平均については前年度よりも6時間程度減少している。

【取組内容】について

- ・各先生方一人ひとりが、目標管理シートに指標を掲げ毎月の時間外勤務を意識することで、前年度よりも減少している傾向にある。引きつづき意識を高めていきたい。また、80時間を超えた教員に関しては、健康自己チェック表を提出していただくとともに、管理職から声かけしていく。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・過労死ラインと言われている時間外勤務が100時間を超える教員について、今後も0となるように声かけしていく。
- ・時間外勤務が80時間を超える教員について、勤務状況や仕事の負担度を把握し、できる限りその回数が少なくなるように声かけをしていく。また、本人が毎月の時間外勤務を意識しながら勤務するような意識改革を図る。

大阪市立東中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を51%にする。 令和4年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を41%にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (教務部)	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(学-1) 学校目標や今日的課題を含めた諸課題に基づき、各種の校内研修会を実施する。よりよい教育方法の研究に努め、教育活動実践上の様々な課題について研修を深める。	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校目標や今日的課題を含めた諸課題に係る研修を学期に1回実施する。 令和4年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を51%にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は54%で、目標を2ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月には生活指導研修会、夏休みには救急救命講習を実施、9月には読解力についての研修を行った。また、毎月の職員会議でICT研修を行っている。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、リモート授業を見据えたうえでの教育活動の諸課題解決に向けた実践力向上を目指し、研鑽を積むことの必要性の啓発や、よりニーズに合ったテーマを精選し、主体的な学びを構築できるよう、研修を定期的に実施していく。 	
<p>取組内容②【基本的な方向5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学-1) 公開授業週間を設けて、他教科の授業見学も行い、全教員が互いの指導力向上をめざして研鑽を積む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間を年1回実施し、全教職員が行う。 	B

- ・公開授業の見学参加者数を全教職員、2回は公開及び見学するものとする。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業方法についての意見交換し、指導内容・指導方法についての意見交換や話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を全体の52%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は54%で、目標を2ポイント上回った。

【取組内容】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業方法についての意見交換をし、指導内容・指導方法についての意見交換や話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は57%で、目標を上回った。
- ・公開授業を9月から10月にかけて1か月間行った。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・今後も研修を生かし、教員の指導力向上を目指す。

取組内容③【基本的な方向3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-2)

小中の交流を深めるために、小中合同で研修会などを実施する。また、小中学校での相互授業参観や授業研究を実施することで、生活指導や学習指導方法の改善に役立てる。

指標

- ・小中合同で研修会を実施する。
- ・小中学校での相互授業参観や授業研究を実施する。
- ・令和4年度の学校生活アンケートにおいて「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を41%にする。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和4年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は51%で、目標を上回った。

【取組内容】について

- ・本年度はリモート授業を行い、中学校の授業を各小学校に配信することができた。また、部活動については体験できない分、各部活動の紹介をDVDにまとめ、それを各小学校でそれぞれ見てもらうことができた。
- ・小中合同の研修会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、実施できていない。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点を持ち、新たな小中の取り組みの検討・精査を行う。